

第8回 土木と学校教育フォーラム 発表原稿

奈良帝塚山学園小学校 池田 節

【発表タイトル】

児童の主体的避難行動育成のための取組
～エマージェンシーサインの活用を通して～

【発表概要】

本校は本来、年に1,2回型通りの火災想定避難訓練を実施してきたが、東日本大震災を機に、職員の防災への意識は一変した。改革の一つ目は、南海トラフ大地震を想定したより現実的な防災訓練へ方向転換すること。二つ目は、内陸部で津波の心配がなく、周辺に災害経歴が少ない奈良市では児童の危機意識が低く、継続的な取組により主体的避難行動がとれるよう児童の意識改革を行うこと、である。

以降の訓練では、ガラス張りエントランス玄関の出入りを禁止し、避難集合場所も複数の外部への避難ルートがあり地盤が安定した学園内中高グラウンドに変更した。また、児童椅子の下にゴムネットを取付け、ヘルメットをすぐに取り出せるように工夫した。さらに、緊急地震速報を活用した防災訓練を毎月一回計画し、様々な時間帯に抜き打ちで実施した。

しかし、こうした訓練を繰り返すたびに、常に新たな問題点が浮上する。その中で最大の課題は、音声による緊急地震速報の限界である。教師の指示に頼らず、速報で察知して行動に移すことを目指してきたが、教室外の場所ではどうしても児童の察知が遅れる。廊下や通路は常に児童の歓声が響き、地下の体育館や吹奏楽室は崩落の恐れがあるにもかかわらず、音声が届き取りにくい。

そこで、昨年度「株式会社つくし巧芸」に視認性の高いエマージェンシーサインの開発を依頼し、音声が届き取りにくい校内各所の天井や壁面に16基設置した。普段透明で目立たないアクリル板が、緊急地震速報を受信すると、一分間赤と緑に点滅し、その光が壁面に反射して、素早く児童に視覚的に認識させることができる。

このエマージェンシーサインを活用した訓練では、体育館で球技中の児童も、吹奏楽室で演奏中の児童もすぐに点灯を察知し、校内にいた他の児童に遅れることなく避難行動をとることができた。

本校では今後も、「誰一人として被害者を出さない」という思いを込め、音声視覚双方のエマージェンシーサインを活用した防災訓練を繰り返していく。そして、教員の指示がなくても、どんな時間帯でも、どのような場面でも、児童が自ら考え、「自助」への確かな行動を身につけてくれるよう取り組んでいきたい。

【キーワード】

- ① 災害情報の可視化 ② 視認性の高いエマージェンシーサイン ③ 主体的避難行動